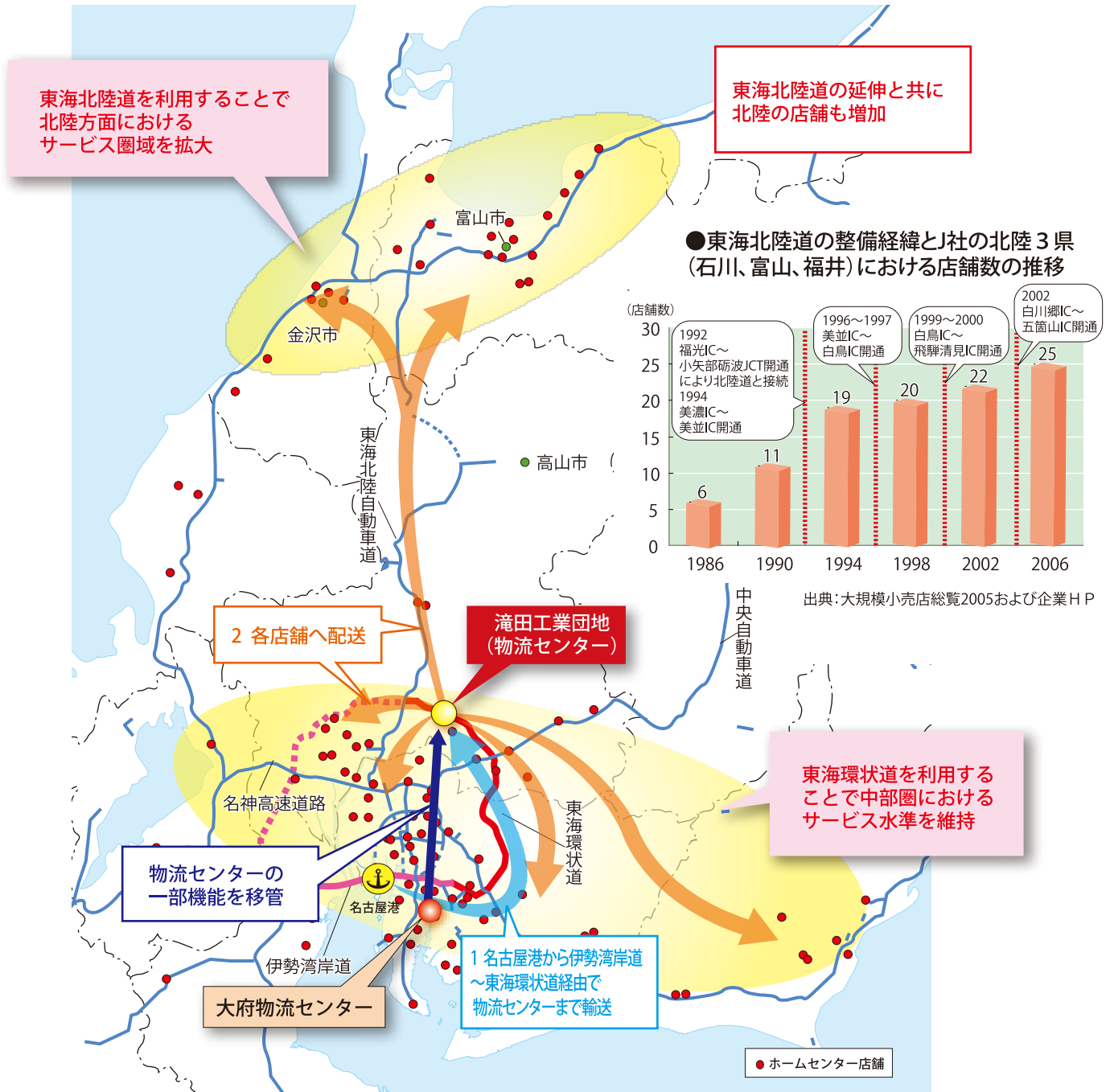


(3) 配送センターの移転や配送エリアの拡大

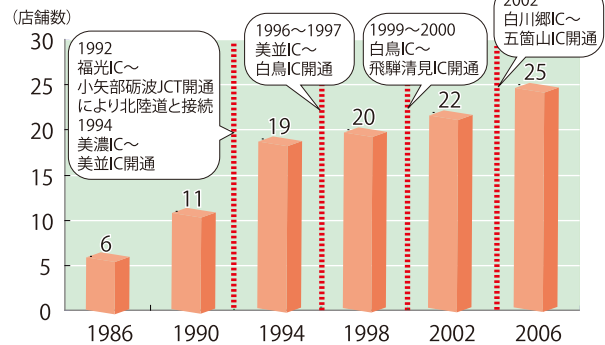
配送センターの移管とそれに伴うサービス圏域の拡大

- 中部地方と北陸地方でホームセンターを展開するJ社では、2006年6月に東海環状自動車道に隣接する岐阜県富加町の滝田工業団地に物流センターを新設しました。
- 東海環状自動車道及び東海北陸自動車道に近接し、それぞれ的高速道路を利用することにより、中部地方でのサービス水準の維持と、北陸地方におけるサービス圏域の拡大という2つのメリットを得られることが進出の理由となっています。

●名古屋港から各店舗までの輸入商品の配送経路



●東海北陸道の整備経緯とJ社の北陸3県(石川、富山、福井)における店舗数の推移



出典：大規模小売店総覧2005および企業HP

出典：ヒアリング及び企業HPを元に作成

配送センターの移転とそれに伴う配送の効率化

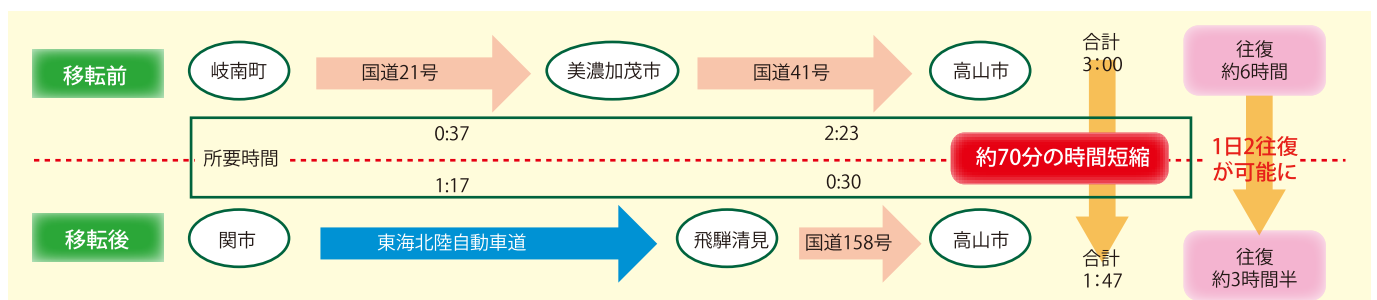
- 自動車販売業 K 社では、岐阜県岐南町にあった流通センターを、2005 年 10 月に東海環状自動車道と東海北陸自動車道との結節点に近い関 IC 付近に移転しました。
- それに伴い高速道路に近接する物流センターのメリットを生かし、配送方法を従来の一般道路利用から高速道路利用に変更しました。
- これによって、外注することなく、高山方面への 1 日 2 往復が可能となり、コストが削減されました。

●生産工場(大阪、滋賀等)から各販売店までの製品の配送経路



出典：ヒアリング及び企業HPを元に作成

●流通センターから高山市までの所要時間の変化

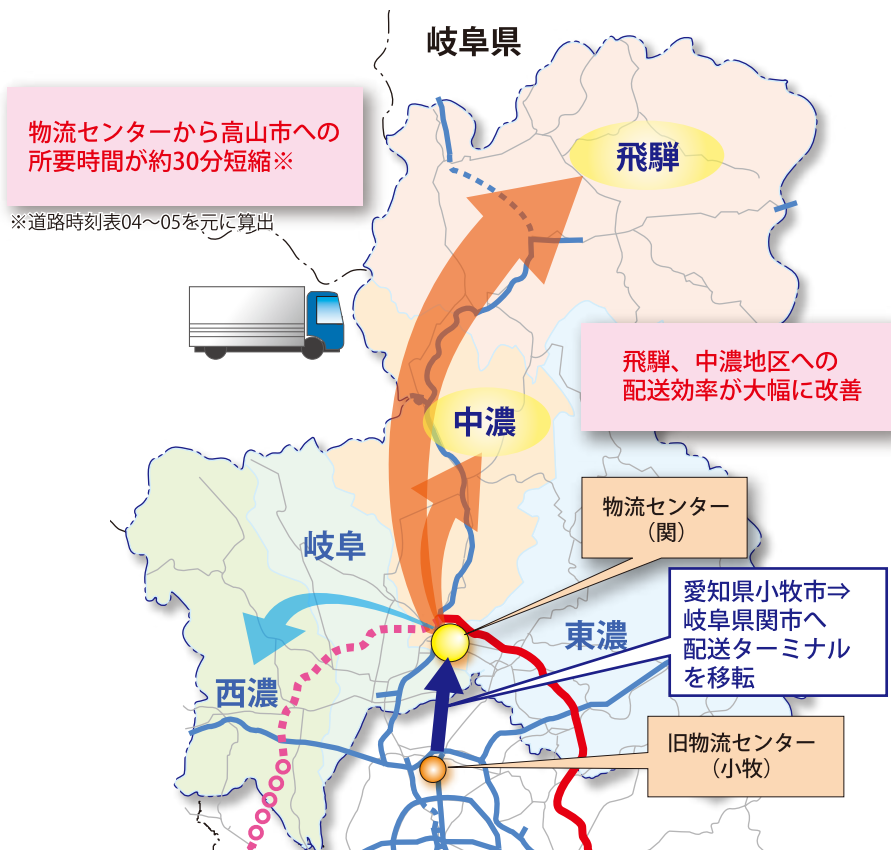


出典：道路時刻表04～05を元に作成

配送センターの移転、配送効率の向上

- 宅配便配送会社のL社では、岐阜県内全域の宅急便を扱う岐阜ターミナルを2005年11月に愛知県小牧市から岐阜県関市へ移転し、県内の飛騨、中濃地区への配送効率が向上しました。
- また、中部支社内のターミナルのほとんどが東海環状自動車道・伊勢湾岸自動車道沿線に設置されたことで、ターミナル間の連携も強くなりました。

● 配送ターミナル移転による効果



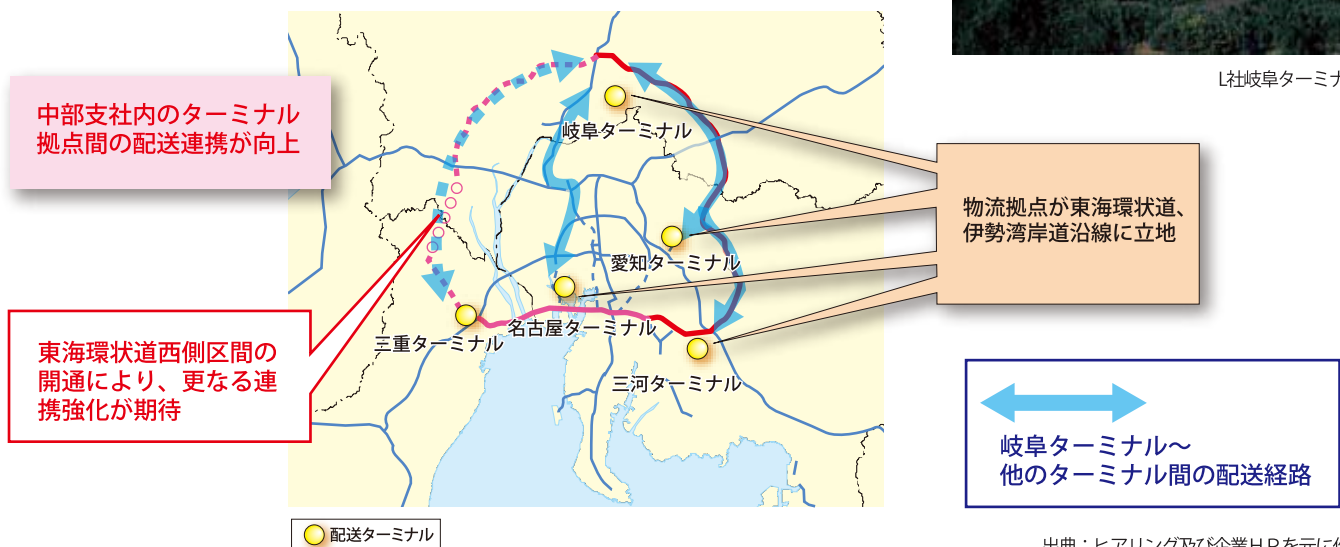
企 業の声

- 移転の理由
 - ・岐阜ターミナルの配送対象地域が岐阜県内全域であり、従前は県外(愛知県小牧市)から配送していたが、できるだけ配送地域に近づくために、岐阜県内に拠点を移転。
- 移転地選定の理由
 - ・岐阜県の中心部に近いこと、東海環状自動車道のICに近いことなどを考慮して、関市を移転地として選定。



L社岐阜ターミナル

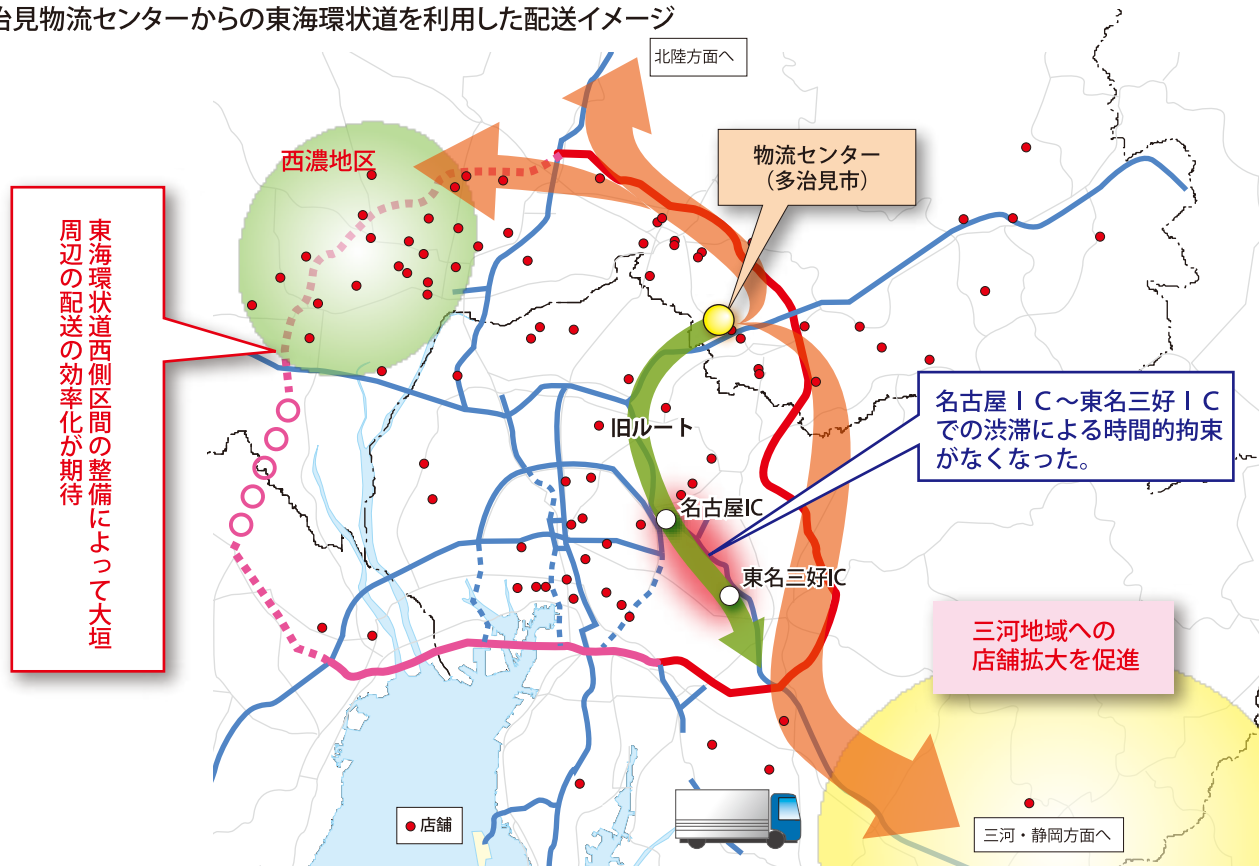
● 中部支社内のターミナルの分布と連携イメージ



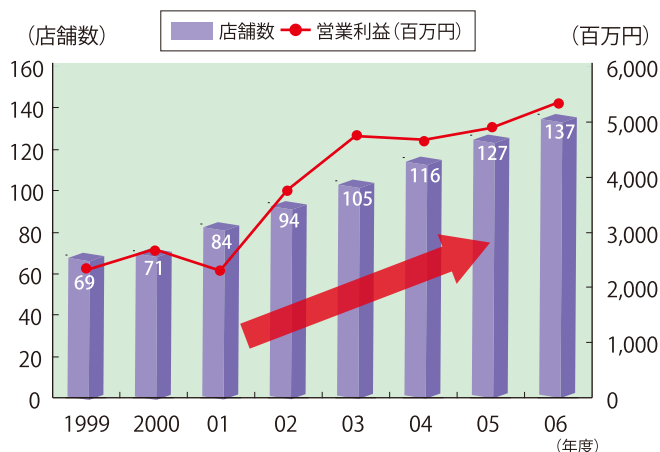
配送エリアの拡大と新たな店舗展開の促進

- 小売業においては、食料品に代表されるように“鮮度”が重視されます。
- 岐阜・愛知県を中心に店舗拡大を続けている小売業大手 M 社では、東海環状自動車道の開通によって、多治見市にある物流センターからの配送エリアが拡がり、特に三河方面への店舗展開がしやすい環境になりました。
- また、東海環状自動車道の開通によって、時間短縮、経費削減、定時性確保等の効果が見られます。
- さらに、西濃地区には多数の店舗が立地していることから、東海環状自動車道西側区間の開通にも大きな期待が寄せられています。

●多治見物流センターからの東海環状道を利用した配送イメージ



●店舗数と営業利益の推移



企業の声

- 東海環状道の影響、効果について
 - ・多治見市にある物流センターからの配送エリアが拡がり、店舗展開がしやすくなった。
 - ・とくに三河地域がより近くなったので、店舗を増やす状況ができたと考えている。
- 今後の企業展開について
 - ・三河地域は現在10店舗にも届いていないので、今後は三河、豊橋、静岡、関東というように東へ進出していきたい。
 - ・東海環状道西側区間ができれば、大垣周辺への配送の効率がよくなり、さらなる店舗展開につながる。